

淀川河川公園 大山崎地区 公園整備計画

平成 27 年 3 月

近畿地方整備局 淀川河川事務所

■大山崎地区の現況

年間利用者数と主な公園施設

年間利用者	主な公園施設
平成 25 年度年間利用者数 : 175,427 人 野球場: 36,958 人 フットサルコート: 2,055 人 ※運動施設は内数	<ul style="list-style-type: none"> ・野球場(2面) ・フットサルコート(1面) ・バーベキュー広場 ・駐車場(108台)

各視点からの現況

ゾーニング計画の実現	魅力	快適性	つながりの改善
<ul style="list-style-type: none"> ・現在の供用区域の大部分は「多目的利用ゾーン」となっている。 ・供用区域の水面側の帯状の区域が「水辺環境保全・再生ゾーン」になっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・広くて使いやすいバーベキュー広場を備えている。 ・住宅街から離れているため、プラスバンド等の大きな音が出る楽器の練習ができる。 ・公園区域に隣接する竹林ではヒメボタルを観察できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・広大な空間に広々とした芝生広場がある。 ・駐車場が大きくて使いやすい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・下流方向には緊急用河川敷道路を通じて、隣接する桂川河川敷公園への移動が容易である。 ・最寄りの鉄道駅である阪急西山天王山駅からは直線距離で約2kmあり、徒歩でのアクセス性はよくない。 ・自動車による国道171号からの入り口は、公園の背後にある工場の入り口と兼ねており、わかりにくい。 ・堤防上のアクセス道路は幅員が狭く、すれ違いが困難である。



■大山崎地区の整備方針

淀川河川公園基本計画に基づき、地区特性を踏まえ、大山崎地区の整備方針を以下のように設定します。

淀川河川公園の整備方針（基本計画）

（1）ゾーニング計画を新たに定める

- 基本計画における地区区分計画を改め、淀川の自然環境が縦断及び横断方向に連続するようなゾーニング計画を新たに定める

（2）淀川の自然環境の保全・再生を図る

- 自然環境の連続性に留意しながら、自然環境のネットワーク及び淀川の特徴ある水辺の景観を保全・再生する
- 干潟や砂州、ヨシ原、ワンド、たまり等の水陸移行帯や淀川固有の生物が生息・生育できる場を保全・再生する

（3）淀川らしい利用ができるようにする

①淀川の自然環境と利用との調和を図る

社会動向の変化、周辺の都市の状況、地域住民・利用者のニーズや意見を踏まえ、地区ごとの特性を考慮しながら淀川の自然環境と利用との調和を図る

②淀川の自然環境の中で水に親しみ、憩う場をつくる

地区ごとの特性を活かし、水辺での水遊びや自然観察、原っぱでの遊びや運動、休憩、散歩など様々な形で淀川の自然環境の中で水に親しみ、憩う場をつくる

③淀川全体をつなぐ・まちと淀川をつなぐ

散策やジョギング、サイクリングなどが行えるよう、淀川全体をつなぐとともに、周辺地域と淀川にまつわる歴史・文化資源の散策・周遊等のルート設定や、広域避難地としての役割など、まちと淀川をつなぐ取り組みを行う

④淀川の水辺の景観を楽しめる場をつくる

水辺越しに見える都心部の眺望景観、北摂連山や天王山、男山、生駒山地などの山なみと一体的な景観との調和を図り、水辺の景観を楽しめる場をつくる

（4）淀川にまつわる歴史・文化資源を活かす

- 渡しや舟運、旧毛馬閘門・洗堰や川港跡、樋跡、三川合流部などの保存や展示、言い伝えを後世に伝えるなど、淀川にまつわる歴史・文化の資源を活かす

大山崎地区の特性

- 淀川河川公園の右岸側の最上流に位置する
- 広大な芝生広場、バーベキュー広場が存在する
- 野球場、フットサルコートなどの運動施設が整備されている
- 下流側に小泉川を挟んで桂川河川敷公園（大山崎町占用区域）と隣接している

大山崎地区の整備方針

◇隣接する桂川河川敷公園との連携利用がしやすくなるようにします

- 大山崎地区と、下流側に隣接する桂川河川敷公園との間の空間に多目的広場を整備し、両公園の連携利用がしやすくなるようにします。

◇大山崎地区の周辺地域の魅力を紹介する案内板を設置します

- 大山崎地区の利用案内と河川環境などを紹介する案内板を設置します。
- 周辺地域を特徴づける資源である、「竹」にまつわる情報を紹介した既存の情報板を見やすくし、学習的な利用ができるようにします。

■大山崎地区の整備・維持管理計画

1. 開園区域の拡大 (つながりの改善)
 ・隣接する桂川河川敷公園との一体的な利用を促進するため、開園区域を拡大し、多目的広場を整備する

2. 公園利用と河川環境等に関する情報の提供 (魅力の向上)
 ・公園の利用案内と、河川の自然環境や歴史等の情報を利用者に提供する案内板を設置する

小畑川上流については、水辺へのアクセス施設の整備は当分実施しない



平成 25 年 8 月撮影

■大山崎地区整備・維持管理項目

エリア	現状及び課題	今後の整備・維持管理の方向性	整備内容(注1)
1 京滋バイパスと小泉川に挟まれたエリア	・淀川河川公園大山崎地区と桂川河川敷公園の間にあり、両公園を分断している	・隣接する桂川河川敷公園との一体的な利用を促進するため、京滋バイパスの下流側に開園区域を拡大し、多目的広場を整備する ・多目的広場は草丈の短い草地とする	・多目的広場の整備(京滋バイパス下流側から小泉川までの範囲)
2 駐車場または管理所付近	・大山崎地区と河川環境に関する情報提供がない	・案内板による公園利用者への情報提供を行う	・大山崎地区の施設構成、公園の利用案内、河川の自然環境、歴史等の情報を利用者に提供する案内板の設置

注1) 整備内容は、およそ5年程度を目途として、整備・再整備、維持管理の実施が見込まれる内容について記載しています。
 注2) 今後の地域協議会での議論、治水・環境の観点からの技術的検討、予算状況等により変更となることがあります。